

サファヴィー朝 1501-1736 ティムール朝衰退期 オスマン帝国の東隣

- 1) イラン高原は、13世紀以来、モンゴルや【1: 】の支配下にあった。
- 2) 13世紀末に過激なイスラーム神秘主義者がサファヴィー教団を設立。西アジアで急速に広まる。
- 3) 15世紀末、サファヴィー教団の教主、【2: 】は、武装した遊牧民の信者を率いて、イランとその周辺を平定し始めた。彼をを支えたのは、アナトリア半島各地のトルコ系遊牧民のサファヴィー教信徒で、【3: 】(あるいはクズルバシュ)と呼ばれた。彼らは「無謬の救世主」であるイスマーイールに無私の忠誠を誓った。イスマーイールは、1501年、白羊朝の首都【4: 】に入城した。これを持ってサファヴィー朝の成立とし、厳密にはイスマーイール1世 位1501-24 となったが、建国後の記述でも単にイスマーイールと記されることも多い。建国後、イスマーイール1世はタブリーズのモスクでシーア派信仰を宣言し、シーア派イスラム教の中でも穏健派の「【5: 】」を国教と定め、イランへの布教を進めた。当時のタブリーズの住人の3分の2はスンナ派であり、周囲からはシーア派を信奉する君主が受け入れられるか不安視する声も上がったが、イスマーイールは信仰の決意を貫き、シーア派は16世紀以降のイランでは支配的となり、イラン高原は今日に至るもシーア派圏である。

「十二イマーム派」とは、アリーとその妻(ムハンマドの娘)の間にできた子孫直系11人のみを「真のイマーム」と考える人々(12人目が救世主として再臨すると考える)。20世紀のイラン=イスラーム革命でも指導原理とされ、現在のイラン、イラクにおける最大の宗教勢力である。なお、「イマーム」とは、シーア派ではアリー以降の最高指導者を指す。他の派では集団礼拝のリーダー、単に学識優れた学者を意味する場合もある。なお、「イスマーイール派」(別名「7イマーム派」)は8世紀におこったシーア派内の過激派で、【6: 】(北アフリカのチュニジアで、ベルベル人を組織して建国909-1171)では国教とされた。11世紀頃、暗殺教団がこの中から分派し、スンナ派のオスマン帝国や遊牧遊牧ウズベク(ウズベク人)と戦って苦戦した。
- 4) 建国直後のサファヴィー朝は、各地を遊牧民の長が支配する分権的な状態だったが、イスマーイール1世は、ペルシアの伝統に従い、最高指導者の称号を「【7: 】」とし(ムガル帝国でも同じ)、求心力の強化をはかった。首都は、タブリーズ(1501) → ガズヴィーン(1548) → イスファハーン(1597) と順次遷都している。(図1)

ティムール朝を滅ぼしたのはこのサファヴィー朝ではない。ムハンマド=シャイバーニーが率いる遊牧ウズベクがブハラに建てたシャイバーニー朝が、1507年ティムール朝を滅ぼした。1510年、サファヴィー朝(イスマーイール1世)との戦いでムハンマド=シャイバーニーは戦死し、シャイバーニー朝も1599年に滅亡した。後掲5)の③で詳述するが、基本はNo.86で既に学んだ。
- 5) **イスマーイール1世 #1 位1501-24 の業績**
 - ① 過激思想からの脱却をはかり、前掲のようにシーア派イスラム教の中でも穏健派の「【5】」を国教と定め、イランへの布教を進めた。
 - ② サファヴィー朝軍は分裂状態にあった白羊朝の諸勢力を撃破し、イラン高原西部とメソポタミア平原の大部分を支配下に置き、1508年に最後に残った白羊朝の君主ムラードを倒してバグダードを制圧し、サファヴィー朝は白羊朝を滅ぼした。白羊朝とは、トゥルクマーンと呼ばれるテュルク系の遊牧民が建てたイスラム王朝で、15世紀後半にイラク、アゼルバイジャン(図1)、イラン西部にまで及ぶ大帝国を築き上げた。1473年、メフメト2世の大軍を迎え撃ち、騎兵をもってよく善戦したが、オスマン帝国の火器で武装した強力な常備軍の前に敗れ、ユーフラテス川が国境に定められた。領土の損失は少なかったが、威信はおおいに失墜。1478年以降は王位を巡る争いが起こって王朝は混乱していた。
 - ③ 一方、サファヴィー朝の成立と同時期に、東方ではトランスオクシアナからホラーサーンにかけての地域を支配する遊牧ウズベクの【8: 】が勃興していた。イスマーイール1世とシャイバーニー朝の君主ムハンマド=シャイバーニーは、書簡を通して互いに相手の信仰を非難しあい、1510年の秋にイスマーイール1世はホラーサーン地方に進軍した。シャイバーニーの軍がサファヴィー朝軍との会戦を避けてメルヴに立て籠もると、イスマーイール1世は退却したと見せかけて後退し、ウズベク軍を城内から誘い出した。追撃を行おうとして城内から出たウズベク軍はイスマーイール1世の伏兵から攻撃を受けて大敗し、ムハンマド=シャイバーニーは戦死した。イスマーイール1世の元に届けられた彼の頭蓋骨は金箔を貼られて酒杯にされ、オスマン帝国のスルタン、バヤジット2世(1402年のアンカラの戦いでティムール軍の捕虜になったのはバヤジット1世)に贈られた。戦後、シャイバーニー朝の支配領域はアム川の北岸まで後退し、ホラーサーン地方はサファヴィー朝の支配下に置かれた。シャイバーニー朝の滅亡は1599年。

《トランスオクシアナ》とは、シル川・アム川の間地域、ソグド地方とほぼ同じ。マールワラーアンナフルは、7世紀以降の呼称。アラビア語で「川の反対側の土地」を意味する。ざっばくに言えばブハラやサマルカンドのあたり。

《ホラーサーン》とは、アム川より西南でヒンドークシュ山脈より北。9世紀以降、サーマーン朝、ゴール朝、ガズナ朝、セルジュク朝、ホラズム・シャー朝がこの地で興亡した。16世紀、サファヴィー朝が、アム川を遊牧ウズベクの南侵に対する防衛線とし、この地を確保した。ざっばくに言えばメルヴのあたり。

トランスオクシアナとホラーサーンはアム川を境に隣接している。図1参照。
 - ④ 1512年にバヤジット2世を廃位して即位したオスマン帝国のスルタン、【9: 】 位1512-20 は、即位直後にアナトリアのシーア派に対して弾圧を行い、処刑されたアナトリアのシーア派信者の数は4万人にもぼつたとされる。これは、サファヴィー朝と最盛期のオスマン帝国の対立を決定的なものとした。1514年、【9】はイラン高原に親征、イスマーイール1世も出陣。この戦いこそ、軍事史上大きな意義を持つ【10: 】であり、鉄砲と大砲で武装したオスマン帝国が騎馬軍団が中心のサファヴィー朝を撃破した。惨敗し、「影武者」の犠牲で辛うじて逃れたイスマーイール1世は、キジルバシュからの尊敬と信頼を失い、自らも政治への関心を失って狩猟や飲酒に走るようになり、1524年に37歳で没した。アゼルバイジャン(カスピ海西南岸地域…トルコ系シーア派ムスリムが多く居住)をオスマン帝国に、一時奪取された。サファヴィー朝はしばらく忍耐の日々を送った。
- 6) シャー、【11: 】 #5位1587-1629 の時代に全盛期を迎える。 アッバース朝とは無関係。

